



遠近特
2378
343

瑠璃紫
江戸朝顔

前編

武蔵野と

名残る如

月乃

大園翁

秋野亭

錦外

三升作
豊国画



卷之壹



いふは... 回... 月乃... 大園翁... 秋野亭... 錦外... 三升作... 豊国画...
いふは... 月乃... 大園翁... 秋野亭... 錦外... 三升作... 豊国画...
いふは... 月乃... 大園翁... 秋野亭... 錦外... 三升作... 豊国画...

文政五年

三升作

三升作





丹藏が身是守弥助
後の吉岡傳房

○細山家の
奥方
真弓御前



熊野の
妹朝顔
後井
二代の
熊野
袖乞
無三四が艶色小ま
迷ふ



鑄倉
雪の下
池田屋の抱女
遊君熊野

後小
佐々木
巖流



初都
五
糸の
傘張
棟漏
丹藏

内
南

左
右



月 五



五



あつて
おん
いふ

あつて
おん

あつて
おん



あつて
おん

あつて
おん

あつて
おん



あつて
おん

あつて
おん

卷之三

二の... 三の... 四の... 五の... 六の... 七の... 八の... 九の... 十の... 十一の... 十二の... 十三の... 十四の... 十五の... 十六の... 十七の... 十八の... 十九の... 二十の...



この... 三の... 四の... 五の... 六の... 七の... 八の... 九の... 十の... 十一の... 十二の... 十三の... 十四の... 十五の... 十六の... 十七の... 十八の... 十九の... 二十の...

この... 三の... 四の... 五の... 六の... 七の... 八の... 九の... 十の... 十一の... 十二の... 十三の... 十四の... 十五の... 十六の... 十七の... 十八の... 十九の... 二十の...



この... 三の... 四の... 五の... 六の... 七の... 八の... 九の... 十の... 十一の... 十二の... 十三の... 十四の... 十五の... 十六の... 十七の... 十八の... 十九の... 二十の...

此の世は花のけのりか
 右の世は花のけのりか
 左の世は花のけのりか
 下の世は花のけのりか
 上の世は花のけのりか
 前の世は花のけのりか
 後の世は花のけのりか
 東の世は花のけのりか
 西の世は花のけのりか
 南の世は花のけのりか
 北の世は花のけのりか
 東の世は花のけのりか
 西の世は花のけのりか
 南の世は花のけのりか
 北の世は花のけのりか



人の世は花のけのりか
 人の世は花のけのりか
 人の世は花のけのりか
 人の世は花のけのりか
 人の世は花のけのりか
 人の世は花のけのりか
 人の世は花のけのりか
 人の世は花のけのりか
 人の世は花のけのりか
 人の世は花のけのりか
 人の世は花のけのりか
 人の世は花のけのりか

此の世は花のけのりか
 右の世は花のけのりか
 左の世は花のけのりか
 下の世は花のけのりか
 上の世は花のけのりか
 前の世は花のけのりか
 後の世は花のけのりか
 東の世は花のけのりか
 西の世は花のけのりか
 南の世は花のけのりか
 北の世は花のけのりか
 東の世は花のけのりか
 西の世は花のけのりか
 南の世は花のけのりか
 北の世は花のけのりか





月夜
舟
あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに
あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに
あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに

月夜

舟



あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに
あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに
あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに
あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに
あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに

あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに
あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに
あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに
あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに
あまのついでに
うらまきり
おのやま
せいふく
ついでに



歌川豊国画 ○市川三升作

歌



小舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり

舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり

舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり

舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり
舟はのり大川を舟はのり

船田

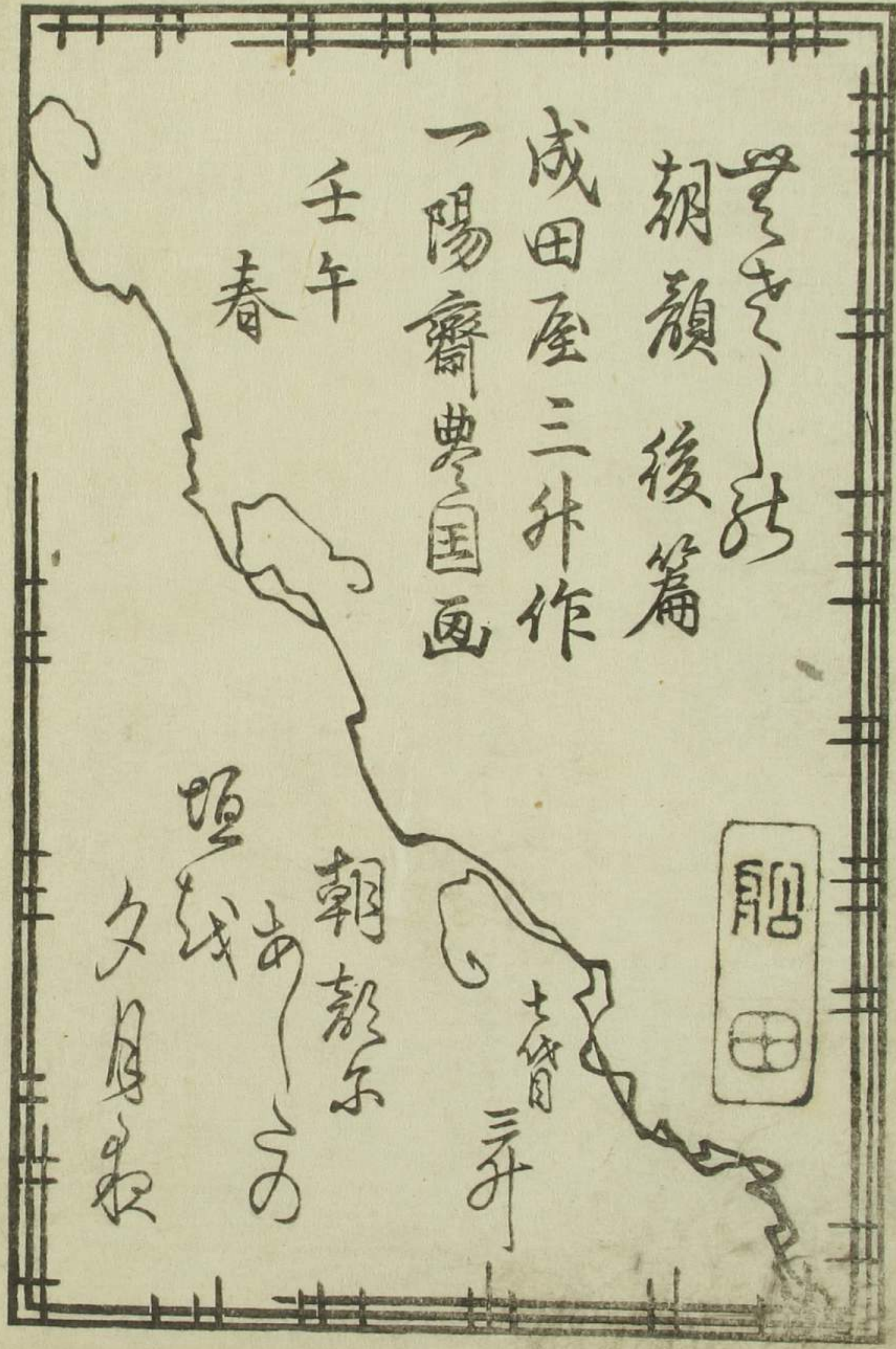


あきの月夜

元板

遠
2398
3432

四卷





この世に生かすは
死ぬるは死ぬるは
死ぬるは死ぬるは
死ぬるは死ぬるは
死ぬるは死ぬるは
死ぬるは死ぬるは
死ぬるは死ぬるは
死ぬるは死ぬるは
死ぬるは死ぬるは
死ぬるは死ぬるは

せんちう
のこるは
せんちう
のこるは
せんちう
のこるは
せんちう
のこるは
せんちう
のこるは
せんちう
のこるは

月本
10三

ついでに...
ついでに...
ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...



ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...



ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

五卷

〇うてむきへをたんのやうに
 ますせなをいそぎてつづま川へ
 ぬいでせんこうくぬのまらり
 たりてやうやく四日の夕ぐれ
 松木のしゆんいりなるに松さんや
 さらの月下舟人雨ちりされ
 さまらうさき舟のいんくとすまれ
 一ゆきまきもるけさうり
 ぞやうにまきかゆてり舟の上より
 ちれ穴舟中ちりりひやうきすに
 これ八はちの舟の船人きまらり
 舟船とのりの月舟舟とまわぬ
 ちりちりまきへしそのやまんま



〇うてむきへをたんのやうに
 ますせなをいそぎてつづま川へ
 ぬいでせんこうくぬのまらり
 たりてやうやく四日の夕ぐれ
 松木のしゆんいりなるに松さんや
 さらの月下舟人雨ちりされ
 さまらうさき舟のいんくとすまれ
 一ゆきまきもるけさうり
 ぞやうにまきかゆてり舟の上より
 ちれ穴舟中ちりりひやうきすに
 これ八はちの舟の船人きまらり
 舟船とのりの月舟舟とまわぬ
 ちりちりまきへしそのやまんま

五の巻

五





此の男は
 何れか
 名を
 知らず
 然るに
 其の
 威風凛々たる
 容姿は
 見るに
 驚かす
 其の
 居る所
 には
 何れも
 近づか
 ず
 其の
 意を
 測る
 事
 不能
 なる
 事
 知る
 べし
 其の
 居る
 所
 には
 何れも
 近づか
 ず
 其の
 意を
 測る
 事
 不能
 なる
 事
 知る
 べし

此の男は
 何れか
 名を
 知らず
 然るに
 其の
 威風凛々たる
 容姿は
 見るに
 驚かす
 其の
 居る所
 には
 何れも
 近づか
 ず
 其の
 意を
 測る
 事
 不能
 なる
 事
 知る
 べし
 其の
 居る
 所
 には
 何れも
 近づか
 ず
 其の
 意を
 測る
 事
 不能
 なる
 事
 知る
 べし



此の男は
 何れか
 名を
 知らず
 然るに
 其の
 威風凛々たる
 容姿は
 見るに
 驚かす
 其の
 居る所
 には
 何れも
 近づか
 ず
 其の
 意を
 測る
 事
 不能
 なる
 事
 知る
 べし

此の男は
 何れか
 名を
 知らず
 然るに
 其の
 威風凛々たる
 容姿は
 見るに
 驚かす
 其の
 居る所
 には
 何れも
 近づか
 ず
 其の
 意を
 測る
 事
 不能
 なる
 事
 知る
 べし

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、



一、
 二、
 三、
 四、
 五、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、



胡ノ

七

七言 月夜に月影は
 れてさるる影と
 せんくさるる影と
 せんくさるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と



七言 月夜に月影は
 れてさるる影と
 せんくさるる影と
 せんくさるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と

七言 月夜に月影は
 れてさるる影と
 せんくさるる影と
 せんくさるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と



七言 月夜に月影は
 れてさるる影と
 せんくさるる影と
 せんくさるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と
 りんぞるる影と

今更に大坂城に在りては、
 徳川家康の御遺徳を慕ひ、
 忠臣の志を継ぎ、
 義士の心を奉り、
 敵を討つべしと誓ひ、
 刀を抜けり。



此の如く、
 忠臣の志を継ぎ、
 義士の心を奉り、
 敵を討つべしと誓ひ、
 刀を抜けり。

徳川家康の御遺徳を慕ひ、
 忠臣の志を継ぎ、
 義士の心を奉り、
 敵を討つべしと誓ひ、
 刀を抜けり。



徳川家康の御遺徳を慕ひ、
 忠臣の志を継ぎ、
 義士の心を奉り、
 敵を討つべしと誓ひ、
 刀を抜けり。

歌川豊国画
市川眠三升作

又かんていんが身傳わういんを年いんの信じていけりてきり
 又とほむいんをきりてきりてきりてきりてきりてきりてきり
 うれがの殿まゝまんびりてきりてきりてきりてきりてきり
 助ごりやけるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
 のいんあせすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす
 といんあせすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす
 又あけりてきりてきりてきりてきりてきりてきりてきり
 月やとまあひあせすすすすすすすすすすすすすすすすす
 とあつのにんあせすすすすすすすすすすすすすすすすす
 さられそのすはすすすすすすすすすすすすすすすすすす
 衣まゝあせすすすすすすすすすすすすすすすすすすす
 ちまがけりてきりてきりてきりてきりてきりてきりてきり
 めてきりてきりてきりてきりてきりてきりてきりてきり



備筆 藍場 晋果
 松修りし 三升
 板元 山口屋

昔語成田之開帳 六册
 山東京山作
 哥川国貞画

東模様連理乃巢籠 六册
 南山嶺作
 春亭画

源家 風光白旗榮 六册
 再興
 哥川豊国画

古今雛一對鴛鴦 五册
 晋米 藤田玉粒作
 国直画 後美丸画

三勝 看踊公代唐金 五册
 半七
 哥川国安画

忠臣浮世市藏 六册
 北尾美丸画

江戸廻花二入助六 六册
 緑亭可山作
 前貞虎画 後貞屋画

美艶仙女香 一包四十八柄
 妙や
 ○此のみに用ひてのり
 向じきりてきりてきりてきりてきりてきりてきりてきり
 へてきりてきりてきりてきりてきりてきりてきりてきり

瑠璃紫江戸朝顔 六册
 市川團十郎作
 哥川豊国画

調合賣弘所 南てんま町三丁目坂本氏
 調合賣弘所 南てんま町三丁目坂本氏

地本錦繪問屋
 江戸馬喰町二丁目 錦耕堂 山口屋藤兵衛版

